

## お守り

関東学院中学校三年 串田 和真

僕の母方の祖母は、人に「お守り」を渡す（あげる）のが好きだ。知人や親戚が、ケガか病気をした、赤ちゃんができた、受験を控えている……等々、理由は様々だが、そんな時祖母はきまって、「じゃあすぐにお守りを渡してあげなくちゃ」と言い、祖母お気に入り（？）の厄除地蔵尊へ行き、お守りを買って相手に渡す。当然、僕の家族も毎年「お守り」をもらっていた。

しかし、その数がすごい。まず新年、たいがい1月2日辺りに母の携帯が鳴り、「家族みんなの健康と、お父さん（祖父と父）たちの仕事が上手くいくようにって、ご祈祷してもらったからね……」と、厄除地蔵尊の現地から報告がある。そして、「お守りも買ったからすぐ送るね！健康のお守りと、災難から守ってくれる身代わりのお守り、あとは子供たちに学業のお守りに、子供たちのランドセルやリュックにつけるといいかなあーって思って、干支の刺繍がしてあるお守りも買って……」といった感じで、後日、僕や弟が好きそうなお菓子と共に、大量のお守りが届く。幼いながらに僕は、「こんなにどうするんだろ？」と思っていた。しかし、健康用、学業用、身代わり用……守備範囲がそれぞれ違うなら仕方がない。新年は、ランドセルについているお守りを新しいものに替える、という作業から始まる、というのが恒例となっている。

お守りは、目的によって、色々な種類があるんだなあ、効力は一年間なのかあ、と思っていると、しばらくして次の「お守り」が届く。新年にもらう「お守り」は、ザックリ一年間を守るもの、その後は目的別だ。

小学生の頃、僕が骨折した時、「早く治りますように」と一つ。治った後は「もうケガしませんように」と一つ。一番下の弟が、赤ちゃんの頃、何度か入院した事があり、その時はスゴかった。「早く退院できますように」「もう入院しないでいられますように」

弟は三回程たて続けに入院してしまったので、その都度二個のお守りが届き、最終的に「ちよっとお守りの効力（？）が弱いみたいだから、いつも見える所につけた方がいいわね」と

言って、お見舞いに来た時に、弟のベビーベッドにお守りをつけてから帰っていった。

母は内心ではタジタジ、といったところだったらしいが、「もう入院しませんように」と祈っていたそうだ。

母にとって祖母は自分の母親なので、こんなふうには何かあるとお守りをくれることに慣れてきたようだが、父は困り顔で、「お守りは一年で一個でいいのに。こんなにたくさんもらっても、神様同士がケンカする」と言い、「普通ゴミなんかで捨てたりできないから、年末にはまとめて神社に還しに行かない」と、大掃除の時は半分怒りながら、家中にある大量のお守りを集め、その他、父自身が買った破魔矢や、商売繁盛の熊手などと一緒に近所の神社へお還しに行く、というのも我が家の恒例行事となっていた。

こんな感じでお守りがたくさん届くのは、僕たち家族のことを思ってくれている証拠でありがたかったが、僕がイヤだったのは、その後に起こる良い出来事は全て「お守りのおかげ」になってしまう事だ。

ケガや病気が早く治ったのは、「お守りのおかげ」（若いから・・・・・・じゃなくて？）。

試験で良い点数が取れたのも「お守りのおかげ」（テスト勉強、頑張ったんですけど）、何でもかんでも「お守りのおかげ」なのだ。それがイヤだと感じたこともあったが、「お守りがあるおかげ」で安心感をもらったことがあった。試験前に（半ば無理矢理？）持たされたお守りの存在が心強く感じたのだ。どんなテストも、準備をしっかりといても多少の緊張がある。「もし苦手な所が出たら・・・・・・」と急に不安になることも。それが、「お守りがあるから大丈夫！」というよくわからない安心感と自身が湧いてきたのだ。まあ、結果的に「お守りのおかげね！」（僕も努力しました）となってしまうのだが。

「お守り」自体が僕に代わって何かをしてくれるわけでもない。だが確かに不安な気持ちを和らげてくれる効果があるのだと思う。

祖母はよく、「みんなが健康で幸せに暮らせますように」と言っている。祖母の渡すお守りにはそんな願いが込められているのだ。

僕はふと思った。そうやって、何かあるとすぐお守りを買って渡す祖母は、自分の幸せをお願いする為のお守りを持っているのだろうか・・・・・・と。当然、自分の分も買ってはいるのだろうけれど、今度は僕が、祖母の健康と幸せを願ってお守りを買ってあげようと思う。とりあえずは元気で長生きしてほしいから、「健康のお守り」を買ってみようかな。

（静岡県静岡市）

【無断転載を禁ず】